

---

# さア、楽しい夜会の始まりだ

篠原

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

さア、楽しい夜会の始まりだ

### 【Zコード】

Z9204E

### 【作者名】

篠原

### 【あらすじ】

ある日、俺の大事な大事な”あの人”がぼろぼろの姿で帰ってきた。詳しく聞いただそうとしたが何も言わない”あの人”・・・それを見かねた俺は、独自のルートで”あの人”をあんな姿にした犯人を知る。知った瞬間すぐにそいつのもとに駆け出しそうになったモノを抑え込み、周到にソイツを消滅させる準備を整える。そして今夜、俺の中に潜む獣が牙を出す

活気があふれた街がそろそろ寝静まるころ・・・  
例え普通の人々がちゃんと活動する時間でもともと人通りが少ない裏道は、静まり返った今となつては、さらに人気がない場所だった。

いつもなら・・・

そこには、二人の男が対峙するように立っていた。が、しばらくすると、片方の男はその場でみつともなく尻もちをつく。  
もう片方の男はそれを見てクスクス笑っていた。しかし田はどうみたつて笑つておらず、尻もちをついている男の恐怖心をさらに煽る。

男は、どうにかこの場を抜け出そうと必死に叫びたてる

「俺は知らなかつたんだ！！嘘じやねえ！」

「へえ？・・・でもさ、結局かかわつたことには変わりないんだし、  
その結果”あの人”を傷つけたことにも変わりないしんだし？」

そんなこと、俺にとつては関係ない。

ただ、”あの人”を傷つけたといつ事実だけで十分。  
お前にとつてはただのオアソビ、だけど、俺にとつてはお  
前を仕留めるには十分すぎるほどのキッカケ・・・

「アイツを傷つけたことは謝る・・・だから、頼む！見逃してくれ！なんでもする！」

「・・・」

「金だつて払う！・・・なあ、頼むよ！俺達ダチ、だろ？カイ・・・

「

この期に及んでもまだ命乞いをする男の姿は、カイ、と呼ばれた男に  
とつてはただただ不愉快なものには変わりなくて・・・

”あの人”を平氣で傷つけたクセに、自分のこととなると『助けて  
くれ』と命乞いをみつともなくするこの男が腹立たしくて・・・

しばらく、懇願する男をどこか虫けらでも見るような目つきで見て  
いたカイだったが、すぐに思いは決まつたらしく、ふつと笑みをこ  
ぼす。

その姿に、男も多少ひきつってはいるがつられて笑う。が、それは  
次の言葉によつて地にたたき落とされることになる。

「ダチだからつて許してもらえると？・・ハツ、笑わせんじやねえ  
よ。そんな考え、”あの人”に手エ出した時点で俺にとつては何の  
意味もなさない。たとえそれが俺の兄貴や弟だろうが、親だろうが、  
関係ない。ただ、俺は”あの人”を傷つけたやつをこの手で排除す  
るだけだ」

「・・・あ・・・・・」

「まあ、お前もあの時”あの人”に手を出した自分の人生を呪うん  
だな」

「・・・ヒィ！――」

そう言うとカイは静かに尻もちをついた男の方へと歩み寄る。

男は、顔は笑つてゐるが釀し出す雰囲気と、何よりもまるで捕食者・  
・狩るもの的眼をしたカイに恐れをなして、とつさに立ち上がると  
何も考えずに走りだす。

カイはそれを何とも思わず、走つて追いかけるようなこともせずに  
ゆつくりゆつくり普段どおりの歩調で、逃げ出したエモノを追いか  
ける。

その通り道は幾重にも分かれ道があり、一つでも間違えれば見当違ひの場所に出てしまう。

それなのにもかかわらず、カイは確実に男を追い詰めていた。まるで、そんなことは計画の内で、目的の場所へと追い詰めているかのように

しばらくして、正にその通りだった。

男は行き止まりに直面してしまい、あわてて引き返そうとすれば、出口付近にはすでにカイが仁王立ちしていて。

その手にはじこで手に入れたのか、細めのパイプが握られていた。

男はその姿を見てさらにビビり、行き止まりだとわかつていいのはずなのだが、すこしでもカイから逃げたい一心でもと来た道を逆走する。

しかし、何度も壁は動いたりするわけもなく、ついに男は追いつめられた。

どうにか壁を登ろうとするが、取っ手になるものがほとんどない壁をひょいひょい登れるわけもなく、男はすこし登つたところで焦りのせいか無様に落ちる。

しばらく痛みに顔をゆがませていると、いきなり顔に影がかかった。それに驚き眼を開けると、そこには

「おーおい、人の顔見た瞬間まるで化け物でも見たように逃げるのやめてくれよ。傷つくじゃないか」

そう言いながらじこじこと微笑むカイがいた。

しかし、そんな笑顔も男にとつてはただの恐怖の対象にしかならず、また声にならぬ悲鳴をあげながら壁まで後ずさりする。

その様子をつまらなそうに眺めたカイは、手に持っていたパイプを何度も手に鳴らすように振りながら男に近づく

「逃げるなつていつてんだら？まだコッチの用事も終わってねえつ  
つつの」

「・・・う・・・あ・・・・・」

「それに、まだお楽しみは始まつたばっかだ。そんなツレねえ顔し  
てんじやねえよ。・・・ついついやり過ぎちまつだろ？」

「・・・お、俺・・・は・・・・・」

「おつと、今さら何も聞く気はねえぜ～もつ幕は上がつてんだ。今  
わら降つむことせゐるかなべ」

そう言つとカイは振り回していたパイプで肩をぽんぽんと2・3度  
軽くたたくと、ゆっくり地面に下ります。

それが道路にあたり、カラソと乾いた音をたてる。そんな音にモビ  
クつく男をカイは楽しそうに見つめながら、フンシと鼻で笑つと、

「ああ、夜会の始まりだ・・・」

逃げることは許さない。

「これはお前の罪・・・

大事な大事な”あの人”を、無情にも傷つけたお前の・・・  
俺は、誰が何と言おうと許す気はさらさらない。

ああ、もうすでに幕は上がつたんだ。

楽しい楽しい夜会と洒落こむづかへ。

なア？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9204e/>

---

さア、楽しい夜会の始まりだ

2010年10月28日08時49分発行